

前ロシア大統領、新しい反米軍事同盟の出現を予言

RT

January 22, 2023

ウクライナ危機は、ワシントンに「うんざりした」国家ブロックを、蜂起させることになるかもしれないと、ドミートリ・メドヴェージェフは言った。

キエフへの絶え間のない軍事援助は、明かに、西側集団が「ロシアを疲弊させ、できれば破壊する」ことを狙っていることを示している、とロシアの前大統領ドミートリ・メドヴェージェフは、日曜日、語った。しかし、この努力は結局、アメリカとその同盟諸国に、バックファイアをもたらすだろうと、彼は考えている。

現在、ロシア安全保障理事会の副会長を務めているメドヴェージェフが、社会メディア・ポストこのコメントを発表したのは、ドイツの米 Ramstein 空軍基地で集会のあった数日後のことだった。ここで西側諸国は、キエフへの支援を続けると誓った。

「ラムシュタイン基地の集会と、キエフへの重量兵器の補給は、間違いなく、我々の敵がどこまでも際限なく、我々を疲弊させるか、あわよくば我々を滅ぼそうとしていることを示している」と、前大統領は書いている。

しかし、ウクライナにおいて戦争を引き延ばすことは、究極的には、「アメリカに飽き飽きした」国家群を糾合し、新しい軍事ブロックを出現させることになるだろう、とメドヴェージェフは示唆した。

「これは人類の歴史で、長い戦争の間に、いつも起こったことである。そしてアメリカはそこで遂に、古いヨーロッパと、不幸なウクライナの人々の残りを、放棄しようとする。そして世界は再び平衡状態に戻ろうとする」と、前リーダーは言ったが、しかしそれは、それが起こったときには「遅すぎるかもしれない」と言った。

モスクワはこれまで繰り返し、西側集団に対して、兵器を送り続けるのをやめよと言い、それは最終的に、結果を変えるよりも、敵対関係を引き延ばすだけだと言ってきた。ロシアの高官たちは、繰り返し、今起きていることは、単にとウクライナとの紛争でなく、ロシアと、アメリカに導かれた NATO 連合の間の、代理戦争だと性格づけてきた。

ロシアは 2022 年 2 月 24 日に、ウクライナに軍隊を送り、これはキエフが「ミンスク合意」を実行しないからだと言った。これは、ウクライナ国家の内部に、ドネツクとルガンスク地域の、特別の国家的地位を認めるという取り決めだった。この議定書はドイツとフランスが仲介者となり、2014 年に最初に署名された。前ウクライナ大統領ピョートル・ポロシェンコは、その後、キエフの主たる目標は、この合意を利用して、時間を稼ぎ、「強力な軍事力を創り出す」ことだったことを認めた。

その一方で、前ドイツ首相アンゲラ・メルケルと、フランス大統領フランソワ・オランドは、共同で真意を認め、「ミンスク合意」は決して約束を満たすことを意図したものでなく、ウクライナがその軍隊を強化するための、時間稼ぎの策だったと言った。

[訳者 Greatchain 注]

これは RT が、メドヴェージェフの見解を解説したものである。メドヴェージェフでも、プーチンでも、ラヴロフでも、ロシアの政治家の言うことなど、誰が信ずるものか、と言う人のために、Global Research というサイトに「**年末報告：ウクライナのネオリベラル体制を救うための腐敗と弾圧**」という論文があることを紹介しておこう。その見出しだけ拾っておくと――

- ・戦争と、巨大なマネー・ロンダリングとしての人道支援
- ・ロシアの脅威と戦うための、言論の自由の抑圧（注：野党の非合法化）
- ・人間の盾としてのウクライナ人
- ・宗教戦争の扇動（注：ウクライナ正教の弾圧）
- ・西側の納税者の負担による戦争ローン

など、メディアは報道せず、知識人には知られている内容である。

なお、ここで注目すべきは、「ミンスク合意」は、ウクライナの軍事態勢を整えるための、初めからロシアを欺く虚偽の約束だったこと、それに関わったのは、メルケル（独）、オランド（仏）、それにポロシェンコ（宇）だったことである。

これは卑劣である。特にプーチンと個人的の仲のよかったメルケルの裏切りは、言語道断である。にもかかわらず、欧米と日本では、ロシアだけを責め、あとの一切を完全に無視した。前にも言ったように、ロシアの政治家は基本的に誠実である。これはシリア紛争や「マレーシア旅客機 MH17 撃墜事件」あたりから、米露関係をずっと観察してき

た私の感想であり、「よくこれだけ我慢できるものだ」と思っていた。ロシアにとっては、**真実と忍耐が身上**であり、それを破れば戦争を招き、祖国を危険にさらすことになるからである。最初から、人類と自国民を売ることしか考えていないグローバリストとは、全く反対の立場に立っている。

もう一つ注目すべきは、ポロシェンコ前ウクライナ大統領である。彼は昔から、ゼレンスキーと同じく、墮落の見本のような人物と言われ、ロシア人を迫害するナチスを支援し、祖国ウクライナの、安全も平和も考えてはいない。その証拠に、大統領になる前のバイデンと彼が、仲良く立っている写真がある。

そのポロシェンコに、今はなき安倍元首相が、何者かに、おそらく「仁義を切ってこい」と命令され、ウクライナまで会いに行ったことがある。安倍さんとポロシェンコは、ウマが合うはずがないから、気持ちの良い会見でなかったことは推察できる。そこでポロシェンコは、その様子を「ハンドラー」に報告したであろう。それが安倍暗殺の動機になったことは、容易に想像できる。私はこのとき、新聞というものが、まだこれほどのものとは知らなかったので、「新聞は密かに〈韓信の股くぐり〉の逸話を載せよ」などと書いた。これは私の非常識であった。

もう一つ、ついでに、同じ Global Research の「**メディアがほとんど無視する、ウクライナについての不都合な 10 の真実**」という記事の、やはり項目だけを並べることにする――

- ・ロシア国境への NATO の拡張
- ・マイダンのクーデタと、ビクトリア・ヌーランドの “Fuck the EU”
- ・ジョー・バイデンの空威張り：おれは、エネルギー会社の重役である息子のハンターを取り調べたウクライナの検察官を、クビにしてやった
- ・生物兵器の製造施設
- ・ウクライナのネオナチ、アゾフ大隊
- ・ゼレンスキーの隠し財産
- ・ウクライナで犯された数々の人権侵害
- ・ゼレンスキーが言論の自由を弾圧するために、法を改正
- ・教会の弾圧
- ・ウクライナの組織的な腐敗問題

――以上